

District 2770



イマジン

ロータリー

会長：小林 賢弘
幹事：北林 隆一

Weekly Report

2022~2023 越谷東RC運営方針

●感謝と恩返しの輪を広げよう

2022~2023 RIテーマ

●イマジン ロータリー

越谷東
ロータリークラブ

創立1987年5月18日



〈例会日〉 毎週木曜日 12:30~13:30

〈事務局〉 〒343-0813 越谷市越ヶ谷3-7-1 (NTT東日本 越谷ビル2F)

☎ 048-965-2037 ☎ 048-965-2011

<http://www.koshigayahigashi-rc.org/> E-mail:info@koshigayahigashi-rc.org

第1732回例会 2023年5月18日

司会：会場運営委員会/永島つる子
会報No.1518号/担当：委員一同

会員数：56名/出席数：27名
出席率：58.00%

青少年奉仕月間



会長挨拶

会長 小林 賢弘

私のシリーズ「バンドマン編」を4回にわたってお届けしてきましたが、5回目の今日ついにほろ苦い最終回を迎えます。

過激なパンクスさゆりを中心とした私たちのバンド「ソープオペラ」は、中央沿線のライブハウス、クラブやガレージでのライブを全てフルハウスとし、インディーズシーンで徐々に名前を知られるようになりました。当時のインディーズブームの中心にいた御三家の一つ有頂天のケラにさゆりが気に入られ、ケラが立

ち上げたナゴムレコードというレーベルからのデビューを持ちかけられました。私・矢沢・阿部の3人は、まさに渡りに船、棚からぼたもちの心境でした。ロックバンド「THE NEMESIS」(ネメシス)が活動停止中で、たまたま流れの中で初めて出会ったパンクというジャンルでインディーズとはいえまさかデビューのチャンスが巡ってくるとは思っていませんでした。当然デビューに反対する理由は何一つ無く、能天気な矢沢とデビューアルバムの選曲を考えたりしていました。



ところが、メジャーデビューをずっと夢見ていたさゆりは、このナゴムレコードからのデビューを頑なに嫌がりました。この当時一度インディーズからデビューしてしまうとメジャーデビューは絶対にできなくなるという、何の根拠もない都市伝説がまことしやかに囁かれていました。腰掛けで始めたソープオペラで何らかの結果が出るのであれば、メジャーへのこだわりが全く無かった私たちとは違い、ソープオペラが唯一の手段だったさゆりにとっては決して受け入れられる話ではなかったのです。

亜細亜大学の学園祭から始まって、とんとん拍子でデビューにこぎ着けたソープオペラでしたが、ここに来てバンド内で意見が真っ二つに別れてしまいました。さゆりの説得を私たちに期待したナゴムレコードのスタッフと飲みに行くことが増え、これがまたさゆりの気に障ったようで、孤独を感じたさゆりは何かにつけ

- ◆黙 想
- ◆開会点鐘 会長 小林 賢弘
- ◆ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」
- ◆クラブソング斉唱 「クラブ賛歌」(2番)
- ◆会長挨拶 会長 小林 賢弘
- ◆幹事報告 幹事 北林 隆一
- ◆委員会報告 副幹事 橋本 政行
- 親睦友愛委員会 宮本 正行
- ◆ロータリーの友紹介
オリエンテーション・教育委員会 五十嵐久幸
- ◆創立記念卓話
「クラブ創立20周年、30周年を振り返って」
バスト会長 小暮 進勇
バスト会長 阿部 朋博
バスト会長 大野 祐肇
社会奉仕委員会 鈴木 一朗
- ◆スマイル報告 出席委員会 栗田 晴巳
- ◆出席報告 会長 小林 賢弘
- ◆閉会点鐘

て私たちに噛みつくようになり、バンド内の空気は最悪なものになってしまいます。メジャーデビューのための人脈作りの手段として東芝EMIに就職していたさゆりは、この頃から社内の付き合いを優先してソープオペラのライブに穴をあけるようになります。一度歯車が狂うとバンドは一気に崩壊へと突き進む様を何度も経験してきた私と矢沢は、ソープオペラの終わりを予感しました。小雪のちらつく3月、吉祥寺曼荼羅のライブで予定曲を終え、アンコールがかかる前にさゆりが帰ってしまい、取り残された私・矢沢・阿部の3人はソープオペラの終焉を確認しました。

こなしたステージ数およそ50回、オリジナル曲26曲、当時のパンクロックシーンに多少の影響と爪痕を残して、ソープオペラはわずか1年半の活動を終えたのでした。

心にぽっかり穴の空いた状態になった私たち3人は、それからしばらくの間無口になりました。時が矢のように流れるあつという間の1年半から一転してバンドの無い生活に戻った私は大学の授業に出るようになり、少しずつ以前の生活に慣れてきました。学習塾で教師のバイトをするようになり、この塾のオーナーが加藤年度に会社設立卓話で少しお話ししましたが、中村さんという凶暴なばばあで、本業の闇金の罪滅ぼしに学習塾をやっていました。私が後に1年間学習塾を経営するきっかけとなった出会いでした。この時期のことは次のシリーズ「オートバイ編」でお話ししようと思います。

スタジオにもライブハウスにも行かなくなった私と矢沢はしばらくの間曲作りに専念していましたが、本当にやりたかったのはパンクでもソープオペラでもなく、自分たちのバンド、ネメシスでロックヤリズム&ブルースを追求し、自分たちの可能性を突き詰めることなんだと再認識します。活動を凍結していたネメシスを私は矢沢と阿部の3人で再結成し、今まで必死でやってきたことにけじめをつけるかのように書き溜めたオリジナル曲をアレンジし録音作業に熱中します。新しいボーカルを探す気が起こらず、私と矢沢が下手くそなりに真剣に歌ってデモテープを何本も録音しました。当時はまだまだプロ仕様だったタスカムの4チャンネルのMTRを3人でローンで買い村田荘の私の部屋でミックスダウンし録音していました。こうして苦勞して完成したデモテープをあらゆるレコード会社に送っていましたが、何処からも返事は来ませんでした。ところが暫くして忘れかけていたある日、レコード会社からではなくホリプロから手紙が届きました。BAPレコードに送ったテープがどこをどう回ったのかホリプロに届き、その楽曲に興味を持った吉村というおっさんが私たちに会いたいという内容でした。

ホリプロ=アイドルという感覚しか持ち合わせていなかった私たちは「俺たちはアイドルじゃねえ」と腹は立ちましたが、まあ一応行くだけ行ってみようかということになり、目黒のホリプロ本社を矢沢と二人で訪ねました。そしてここで私たちのバンドマンとしての将来を決定づける事件が起こります。私たちの間で

長く「ホリプロ事件」として語られるものでした。今日が最終回の予定でしたが時間の都合上、この顛末は次週の冒頭でお話しします。

幹事報告

幹事 北林 隆一

幹事報告させていただきます。

来月はいよいよ小林年度の最後のクラブ協議会があります。委員長の皆様は一年の総括につきましてご準備をお願いします。

次回の例会は、5月25日(木)となります。勝手に雪だるまでコーチをしていただきました現役の埼玉県スキー連盟全日本B級指導員若林茂様をお迎えいたしません。

以上幹事報告でした。



委員会報告

◆親睦友愛委員会

宮本 正行

最終例会のご案内です。

6月29日木曜日、場所は山の上ホテル銀河にて、18時より開催します。小林年度最後の例会になります。皆様の参加よろしくお祈りします。

創立記念卓話

創立30周年記念を振り返って

私は、2006年7月（原会長・大内幹事）創立20周年の年度に入会しました。

初年度は親睦委員会に配属され、清村先生が、米山・財団の委員長でした。

例会が始まる前に、清村先生より、私のところに寄ってきて大野さん米山の寄付をお願い出来ないか？お幾らですかと聞くと、10万円！なんだかわからないけれど、困っていたようでしたので、一言で了承しました。

このことが、会うたびに、17年たった今もあの時は有難かったとお礼を言われます。こんなに喜んでくれて、寄付して良かったと思っております。

それから、入会3年目に親睦委員長を拝命、夜間例会前にボーリング大会を企画しました。若干参加人数が足りなかったのも、例会場でアナウンスしたところ、例会終了後、なんと赤土さんが、大野さん

創立記念卓話



バスト会長 阿部 朋博
(創立30周年記念実行委員長)

創立30周年記念を振り返り

何を語ろうか「下血をして退会した会員の話？30周年式典に参加してクラブの袂を分けたクラブの話？仮面夫婦の様に参加したクラブの話？」いやこれが一番印象に残っている「高さへの思いやり」これを語ろう。

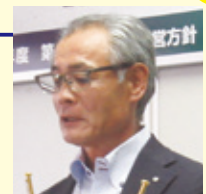
日本橋ロイヤルパークホテル2016年6月16日、2017年5月20日開催の越谷東RC30周年に向けて歯車が回り始めた、いや歯車が狂い始めた会場の、地の利でも、料理の良さでもない30周年会場の高さが足りないという話だ！すごろくで言うと振出しに戻ってしまった。もう1年を切っているのに3mじゃ駄目なのか何故、6mの会場は予約で入らない怒涛の6m探しが始まった

5月20日(仏滅)なのに会場はどこも婚礼でいっぱい、漸くたどり着いたのがホテルグランドアーク半蔵門ただ問題は富士の間の半分を婚礼の利用者がいて使用中、我々の開催時間までにどんでん返して間に合うかどうかギリギリの選択肢である高さは6m。躊躇なくマイカーを皇居迄走らせ仮予約と写真撮りを行って来た、ホテルのロケーションは問題無し諸外国からの参加者もいるので皇居と言う話題性でも

問題無し帝国ホテルグループと言うことでサービスも料理も問題無し警視庁ご用達のホテルと言うことで保安面も問題無し問題面は180名が最大値と半分使用の婚礼が有ることくらい、残るはクラブの承認だけで2016年9月23日無事承認が下りた、時の会長大野祐肇バスト会長と思わずガッツポーズをした。ロータリーの神髓を一言でゆえば「思いやり」では無いだろうか？「高さへの思いやり」この気づきがなければ30周年が成功裏には終わらなかったであろう。総参加者数198名、海外からの参加者数、姉妹クラブ台中港北區RC16名、タイ トンブリRC11名、フィリピン マリキーナバレー RC13名正に国際ロータリーの名に相応しく「奉仕の理想」に集った30周年でした。

今でも思い出します浅水輝子会員の司会の言葉「プロジェクトR、担当は、青木伸翁会員です。それでは皆様、前方スクリーンをご覧ください。」

一番の収穫は「一人で進めば早く行くことが出来ますが、みなで進めばより素晴らしいステージに行くことができる」と言うことを申し添えます。



バスト会長 大野 祐肇

俺も参加するよと私のところに来てくれました。有難うございます。と言ったものの、仕事上の事故で右手の指がありませんでした。最初は欠席予定でしたが、参加してくれたこと。今でも忘れません。涙が出るほど嬉しかった。その翌年の6月に赤土さんは他界されました。残念で仕方ありませんでした。

入会4年目に株竹会長の幹事を頼まれ、何もわからないまま引き受けてしまいました。株竹会長がほぼ段取りをして頂いたので何とかやり遂げることが出来ました。

この年忘れもしないのが、青少年交換留学生イサク・ファルクをホストファミリーとして私が預かっていた時、2011年3月11日14:46東日本大震災が発生しました。幸い私の自宅に居りまして何事もなく、ほっとしました。

そして、入会10年後に創立30周年の会長を拝命さ

れ、ロータリー財団100周年の記念の年でもあり、また私自身もロータリー歴10周年の節目でもありました。年齢も55才この“Anniversary Year”を心に刻むため、年度のクラブ・テーマを『感謝しあって、心を一つに』と掲げ活動をして参りました。会員一致団結して、創立30周年の年度すべての事業に成功に終えたことと、そして創立30周年記念式典を盛会に終えることが出来ましたのも、ひとえに、全会員の皆様の温かい友情とご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。あっという間に、入会17年が経ってしまいました、「人との出会い」っていいですね。これまで多くの人と出会うことが出来ました。また、「恩と感謝」があるからこそ、なかなか退会できなくなるのでしょうか。

結びに、更なる40周年、50周年に向けて、当クラブが発展していきますことを祈念申し上げます。

創立記念卓話

本日は、私の分かる範囲で我がクラブ誕生までの経緯と当時の事をお話したいと思います。皆様ご承知のとおり我がクラブのスポンサークラブ(親クラブ)は、越谷ロータリークラブであります。その越谷ロータリークラブは、1961年(昭和36年)5月9日に浦和ロータリークラブをスポンサークラブ(親クラブ)とし、埼玉県で7番目のクラブとして創立しました。同年6月19日にR・I承認を受け1962年(昭和37年)3月27日に認証状伝達式(チャーターナイト)を執り行いました。そして創立10周年を記念し越谷南ロータリークラブを、また15周年を記念し、越谷北ロータリークラブを拡大しました。その後、創立25周年を迎えた1986年(昭和61年)地区の要請もあり、その年の暮れに新しいクラブの拡大方針が決定され、出来れば同年度中(翌年6月まで)に創立総会、認証状伝達式(チャーターナイト)を実施することを目標に、動き始めたわけです。この当たりから我がクラブ創立の動きが具体化しはじめます。その翌年の1987年(昭和62年)1月20日に、越谷クラブで臨時総会が開かれ、越谷クラブとテリトリーを共有する新クラブ設立が決議され、翌週1月27日に越谷クラブ内の推薦により、坂巻幸次氏が特別代表として委嘱されます。

そして早速、同クラブの有力メンバー各々に特別代表が移籍を要請し、2月初旬に越谷クラブ当時の故小野田正三会長、井橋武治幹事(退会)及び11名の移籍者をもって拡大委員会が発足したわけです。そして2月11日の建国記念日に第1回拡大委員会を開催し、今年度中に新クラブを設立する旨の方針を決定しました。その後3月19日に移籍創立会員(キーマン)をもって第1回の結成グループ会議を開催し、そして4月16日に当時の地区拡大委員長、地区幹事及び故青木並五郎第10分区代理(現ガバナー補佐)を招き第2回会議が開かれました。その間、拡大委員会は休日を返上して連日連夜、精力的に会議を開き、設立準備に当たっておられたと伺っております。その結果1987年(昭和62年)5月18日にパレス会館(瓦曾根)において創立総会を開催し、越谷クラブからの移籍メンバーを含む創立会員(チャーターメンバー)42名の越谷東ロータリークラブが、県内50番目のクラブとして発足する運びとなったわけです。我がクラブは同年6月2日にR・I承認を受け6月26日に認証状伝達式(チャーターナイト)を

越谷コミュニティーセンター・大ホールで執り行いました。

当時1986~87年度国際ロータリー会長は、フィリピン、マニラ・ロータリークラブ会員M・A・Tカパラス氏でした。そして当時の第257地区(現第2770地区)ガバナーは、故佐野康博氏です。そして第10分区代理(現第8グループガバナー補佐)は故青木並五郎氏(越谷南)でした。また我がクラブの初代会長を故中島又四郎会長、初代幹事は大沢昌太郎幹事です。例会場を埼玉縣信用金庫越谷支店内2階に置き始めたわけです。当時、越谷ロータリークラブからは11名の移籍会員(キーマン)がおりましたが、現在は、第六代会長(初代幹事)の大沢昌太郎会員の1名となっております。創立当初、移籍メンバーを含む42名のチャーターメンバー(創立会員)がおりました。現在では、平野武志会員、青木伸翁会員、守屋トミー会員、清村忠雄会員、私の5名と移籍組の大沢昌太郎会員の6名となっております。色々申し上げましたが、これが私の把握している我がクラブの創立に至る経緯です。補足は、越谷クラブ第20代会長で我がクラブの特別代表でもある坂巻幸次パストガバナーに伺って頂ければと思います。

次に、我がクラブのバナーについてお話ししたいと思います。このバナーの作成は1986~87年度当時、第三代、中村 昇パスト会長(退会)が携わったと伺っております。ご覧頂きたいと思いますが、中心に描かれているのは、昇ってくる朝日をイメージしており、東をあらわしています。そして、その両側に背中合わせで左右を向いている鳥は、越谷市とその周辺に生息する越谷市の市鳥にも指定されておりますシラコバトが、羽を拡げ、これからの越谷東クラブの飛躍をあらわしています。使われている三色、青・緑・橙は、越谷市のキャッチフレーズである水と緑と太陽を表し、四枚の羽は、市内4番目に創立したクラブであることを、そして、横の7本の帯は87年創立を表しています。以上何気なく目にしてる我がクラブのバナーにもその時に携わった方々の真剣な取り組みが、うかがい知ることが出来ます。時々思い起こしてみるのもいいのではないのでしょうか。

続いて、毎回例会で何気なく歌っているクラブ賛歌についてお話ししたいと思います。ロータリーには幾つかのロータリーソングがあります。たとえば「奉



パスト会長 小暮 進勇

仕の理想」や「我らの生業」などロータリアンであれば例会で自然に覚えてしまう歌が幾つかあります。そのほかに「2770地区の歌」という余り耳に馴染んでいないものもあります。これは作詞が浦和北東クラブ会員の星野和典氏、作曲があ有名な東京西クラブ会員の藤山一郎氏だそうです。そして、この歌は平成3年1月27日に完成されたようです。それでは本題ですが、地区内83クラブ（当時）を見ても、また他の地区の数多くのクラブを見渡しても我がクラブのように「クラブ賛歌」を持っているクラブは余り無いと思います。これも東クラブの自慢のひとつです。

この賛歌は1990～91（H2～3）年度の故河野雅昭会長、石井久雄幹事（退会）の年度で、5周年事業のひとつとして、クラブ賛歌の作成が決定され、会員より幾つかの作詞を募り、その中には故河野雅昭（当時会長）の作品などいくつかの作品がありましたが、その中から故飯田弥寿嗣会員の作品が選定され、それにあの藤山一郎氏よりも越谷では有名な、故篠崎博会員が寝ずに曲を考え完成されたようです。本当のところは30分ほどで曲を作ったそうです。そして、91（H3）年3月7日の理事会において「越谷東ロータリークラブ賛歌」として正式に承認され、我がクラブの賛歌として現在も例会で歌われ続けている訳です。

公式訪問されるガバナーを始め、クラブを訪れる数々のお客様、皆さまが関心される場所は、会員の皆様もよくご承知のところだと思います。このように素晴らしい賛歌を作って頂いたお二人に改めて感謝を申し上げたいと思います。

次に、いつもこの例会場で何気なく耳にしているエレクトーンについて触れたいと思います。

それは、当時我がクラブのメンバー数人の方が、越谷北クラブにメーキャップに行った時のことです。訪れた例会場で、すでにエレクトーンが演奏されていたようです。我がクラブ創立時にも、その事柄については情報として把握されていたようですが、メーキャップに行った方々が、その例会場の雰囲気の良い心に心を打たれ、是非、我がクラブにもその音楽が欲しいということで、当クラブに戻ってから、

少しずつ準備を重ね、ようやくこのエレクトーンが入ったのは、創立2年目の1988～89年度、中村 昇会長（退会）、故河野雅昭幹事の時です。昭和63（1988年）年7月21日、第61回例会（7月第3回例会）、例会場が、埼玉県信用金庫越谷支店2階の時です。この例会から開会前の食事をしている時や、和やかに歓談をしている時に、エレクトーンのエレクトーンのB.G.Mが流れる例会が始まったわけです。ロータリーソングも生演奏で歌うようになりました。それからは、例会進行中に会場を担当している会員がカセットテープをかけるのに音が出ずに苦労したり違う曲をかけてしまったりする姿を見るのが無くなりました。

ちなみに当日の第61回例会は、元ボクシングチャンピオンの柴田国明氏を迎えて「チャンピオンへの道」という卓話がありました。そして、その時からエレクトーン奏者は、北クラブでも活躍されていた井谷美香さん、そして牧田江利さんのお二人で始まったわけです。その後、数年が経ち、その頃の会報を見ますと平成5年11月25日の第322回例会、故飯田弥寿嗣会長、会田要市幹事（退会）の例会時に演奏者の牧田江利さんが11月28日に結婚され、モハメッド・江利さんとなるのが幹事報告されていました。そして、モハメッドさんは翌年6月末日をもってお辞めになり、その次の年度、平成6年8月18日の第356回例会、前田信男会長（退会）、青木伸翁幹事のころに前演奏者の後任として、当時の資料によりますと6才の頃からピアノを習っていてその後エレクトーンも始めたという下山融代（みちよ）さん現在の村田融代さんに替わり今に至るわけです。

他クラブにお邪魔すると実感しますが、我がクラブのようにとっても和やかな例会場の雰囲気をつくっている要因のひとつにいつも何気なく耳にするこのエレクトーンの影響もあるのではないかと思います。そしてこれも我がクラブの自慢のひとつだと思います。

まだまだ、我がクラブの認証状が式典ぎりぎりまで到着しなかった等々思い出はありますが、時間もありませんので、以上をもちまして、4月25日に五十嵐久幸プログラム委員長より依頼を受けた卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

ロータリーの友 5月号の紹介



オリエンテーション・教育委員会
五十嵐久幸

横組み 14～15P

「高校生とロータリーをつないだ奉仕の心」右近いろはさん

8Pから15Pまで青少年交換学生を経験し、その後の活躍など4人の交換学生の記事が掲載されています。その中でひときわ目を引いたのが、右近いろはさん、17歳でした。ロシアのウクライナ侵攻が始まって3ヶ月もたない2022年5月、高校生の彼女がたった一人、ウクライナ難民を支援したいという一心でポーランドへ飛び立ち現地の子どもたちのために活動したという内容です。学校の関係もあり、42日間という限られた滞在期間を子どもたちのために過ごし、後ろ髪を引かれる思いで帰国しましたが、話はそれで終わりませんでした。現地ポーランドで世話をしてくれた元青少年交換学生の方と、その方の当時の日本のホストファミリーだったロータリアンの繋がりから、彼女自身が交換学生に決定し、この夏再びポーランドに旅立つことになりました。青少年交換学生の素晴らしいプログラムがまた新たな繋がりを生み出した出来事でした。右近いろはさんの今後益々の活躍を期待します。

横組み20P

「小さな背中を目にして」第2660地区 大阪北部
宮里唯子ガバナー

ポーランドのロータリアンから届いた一枚の写真には、ウクライナからお母さんと逃げてきた女の子の背中に直接文字が書き込まれています。逃亡中に

自分が爆撃で死んだり行方不明になってもこの子の出生が分かるようにとお母さんが書き込んだそうです。恐ろしい現実を目の当たりにする衝撃的な写真でした。宮里唯子ガバナーは、これからも被災者に寄り添い誠心誠意ロータリアンの務めを果たしてまいりますと綴っています。

縦組み25P 「マニラの小学校に大型モニター寄贈」 越谷RC

フィリピン、マニラの1600人の児童が在籍する小学校に42インチモニターを22台寄贈したという内容です。フィリピンではほとんどの授業をモニターをつないで行っているが、今までの24インチモニターでは教室の後ろの児童は小さくて見えず、音声も出ないという不便があったそうです。そこで越谷ロータリークラブのメンバーが現地で価格交渉まで行い、22台を用意することができたとのこと。

縦組み13P

私の一冊 「護られなかった者たちへ」

東日本大震災後の仙台を舞台に、生活保護という社会福祉の仕組みを背景にした悲しく切なくもある社会派ミステリー小説で、当時映画にもなりました。佐藤健や阿部寛が出演し、話題にもなった映画で、私も劇場で見ました。印象的な内容でしたが詳細をだいぶ忘れていたので、もう一度見たくになりました。機会ありましたら皆様もぜひご視聴ください。



スマイル報告

社会奉仕委員会 鈴木 一朗

今 回

20,000円

累 計

777,000円

次の例会の案内

第1733回 5月25日

外部卓話:「スキーの魅力と健康維持」
若林 茂 様(埼玉県スキー連盟全日本B級指導員)

【奥の細道 芭蕉】(取残し)

世の人の 見付けぬ花や 軒の栗

地味で目立たない栗の花は、世の中の人の目に止まらぬ花であるが、この家の主人はそんな栗の木を軒近くに植えて、ひそかに隠れ住んでいる。主人の人の柄をもあらわしているようで、趣深いことだ。 (出席委員会)